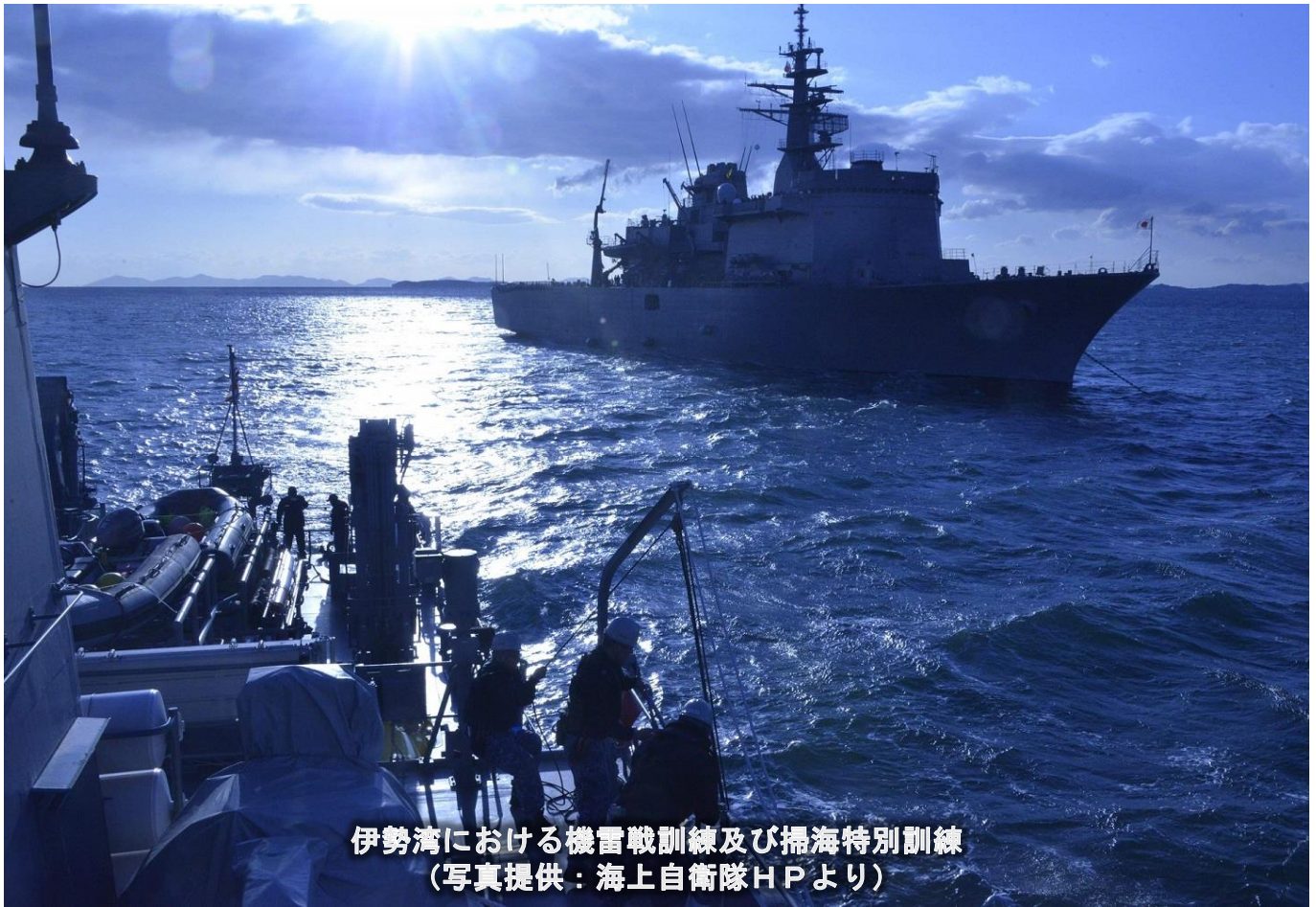


ぼうえい

vol. 62 (2025.春号)



伊勢湾における機雷戦訓練及び掃海特別訓練
(写真提供：海上自衛隊HPより)

目次

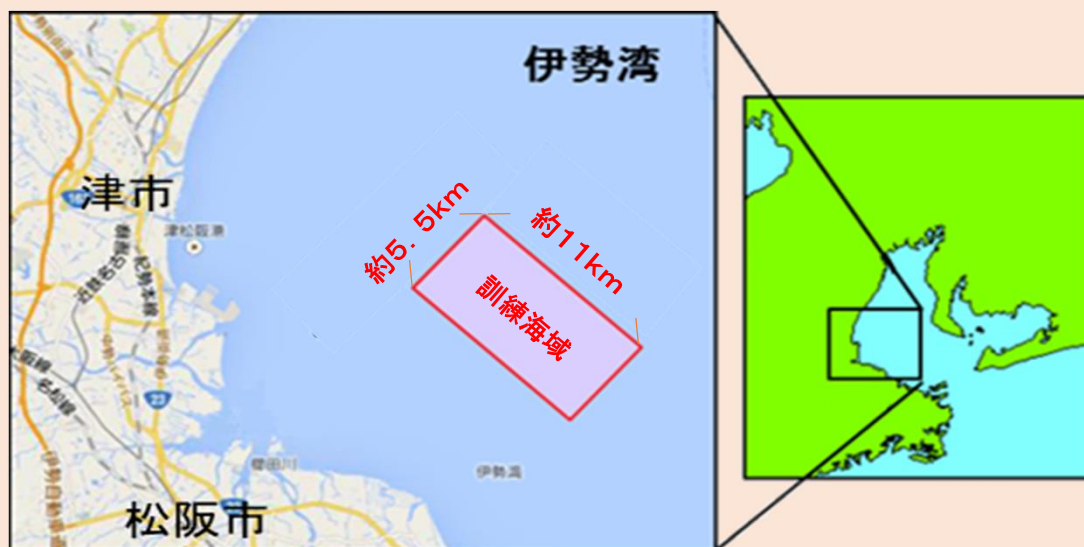
- 1 令和6年度機雷戦訓練(伊勢湾)及び掃海特別訓練(日米共同訓練)
- 3 自衛隊の記念行事・政策広報
- 5 令和6年度方面隊実動演習「南海レスキュー2024」／防衛大臣感謝状贈呈
- 6 防衛生産・技術基盤の強化
- 7 岐阜飛行場周辺防音事業
- 8 「愛三岐のまちから」愛知県犬山市



防衛省と地域社会との
協力を象徴するエンブレム

令和6年度機雷戦訓練（伊勢湾） 及び掃海特別訓練（日米共同訓練）

海上自衛隊は、令和7年2月1日から同月10日までの間、伊勢湾において全国の掃海部隊から掃海艦艇及び掃海ヘリコプターが集結し、機雷戦訓練及び掃海特別訓練（日米共同訓練）を実施しました（訓練海域は右図参照）。なお、日米共同訓練は今回で6回目となります。



【処分艇に乗り海中に敷設された機雷の搜索・処分に向かう日米水中処分員】

同訓練は、機雷の除去・処分や敷設を行い、掃海部隊の機雷戦能力の向上を図るとともに、アメリカ海軍の水中処分員が参加し、共同作戦能力の向上、日米同盟の抑止力と対処力の強化を図る極めて重要な訓練となっています。

また、今年度の同訓練では、掃海艦艇に加え、護衛艦1隻及び潜水艦1隻が参加し、同訓練開始前の艦艇の集結については、昨年度に引き続き、衣浦港（愛知県武豊町）が使用され、艦艇10隻（掃海母艦×1隻、掃海艦×2隻、掃海艇×7隻）が同港に入港しました。

伊勢湾における同訓練の実施期間中は、訓練海域での漁業の操業が禁止となるため、東海防衛支局から、関係漁業者へ訓練計画の説明を行い、御理解をいただいた上で「漁業権等の行使制限に係る合意書」を取り交わしています。

当支局は、今後とも漁業関係者及び地方公共団体等の皆様の御理解、御協力を得つつ、伊勢湾において同訓練が継続的に実施していけるよう丁寧に説明するとともに、平素から良好な関係構築に努めてまいります。



【訓練に先立ち衣浦港に集結した掃海艦艇】

「機雷」とは？

水中で爆発する兵器の総称を水雷と呼び、水深など一定の条件で爆発するものを「機械水雷（機雷）」と呼びます。

その特徴は、地雷と同様の独立性を持ち船舶に大きな被害を与えられること。加えて、海中のどこにあるのか分からない隠密性を持ち、更に仕掛けてから長期にわたり威力を発揮することが出来ます。

係維機雷とは、ワイヤーにより重りに繋ぎ止められて水中に漂っている機雷です。



【模擬機雷を海面に降下中の掃海艦艇】

どのように「機雷を除去」するの？

▶ 掃海：係維機雷に繋がっているワイヤーを切断し、海面に浮き上がってきたところを射撃などで爆発させます（係維掃海）。

磁気・音響・水圧などに反応する機雷に対し、模擬的に艦船がいるように装い爆発させます（感應掃海）。

▶ 掃討：海底深部などに敷設された機雷をソナーなどで探知し、機雷処分員等で処分します。水中処分員が処理を行うこともあります。



【掃海具（浮き）を海面に降下中の掃海艦艇】

伊勢湾における機雷戦訓練の必要性

わが国は四面を海で囲まれており、資源や食料の多くを海上輸送に依存している状況にあります。

伊勢湾内には、国際海上輸送網の拠点となる、名古屋港、四日市港を始め、複数の重要な港湾施設が所在しています。

有事において他国によりわが国周辺に機雷が敷設されても、海上交通路を商用的にも安定して使用できるようにする必要があります。

そのため、平素から定期的に訓練を行うことは、海上自衛隊の機雷戦能力の維持向上において、極めて重要です。

また、2月の伊勢湾は「鈴鹿おろし（北西からの季節風）」による強風が吹く厳しい環境下での訓練になることから、あらゆる状況に対処するために練度をより向上させることができます。



【掃海ヘリコプターから海面に降下する水中処分員】

（写真：海上自衛隊HPより）

陸上自衛隊の記念行事（明野駐屯地、豊川駐屯地） 航空自衛隊の記念行事（岐阜基地） 東海防衛支局の政策広報

陸上自衛隊では、令和6年11月10日に「航空祭（明野駐屯地開設69周年、航空学校創立72周年記念行事）」（三重県伊勢市）が、同月23日、24日に「豊川駐屯地創立74周年記念行事」（愛知県豊川市）が開催され、また、航空自衛隊では、同月17日に「岐阜基地航空祭2024」（岐阜県各務原市）が開催されました。

航空祭や記念行事では、航空機の飛行、訓練展示、装備品展示などが行われ多くの方々が来場しました。



航空祭（明野駐屯地開設69周年、航空学校創立72周年記念行事）

★ 来場者数は約10,000人

（写真提供：明野駐屯地）



【祝賀編隊飛行の様子】

（写真左下：UH-1J、写真中央：AH-1S）



【祝賀編隊飛行の様子】



【行動展示（災害派遣医療チーム：DMAT）の様子】
（Disaster Medical Assistance Team）



豊川駐屯地創立74周年記念行事

★ 来場者数は約8,000人

（写真提供：豊川駐屯地）



【訓練展示の様子】（偵察行動）



【装備品提示の様子】（81式短距離地対空誘導弾）



【訓練展示の様子】（155mm榴弾砲FH70による空砲射撃）



岐阜基地航空祭2024

★ 来場者数は約65,000人

(写真提供：岐阜基地)

【空自70周年記念隊形による編隊飛行の様子】



※ 航空自衛隊70周年を記念して、数字の「70」をかたどった編隊飛行が行われました。



【飛行デモンストレーションの様子】
(F-2B戦闘機)

【Tester color隊形による
編隊飛行の様子】



【空中給油デモンストレーションの様子】
(写真左：F-15J戦闘機、右：KC-767空中給油・輸送機)

東海防衛支局の政策広報

東海防衛支局では、防衛政策や自衛隊の活動などについて広く国民の理解を得るため、様々な機会を捉えて政策広報を行っています。

今回紹介した各行事においても広報ブースを設置し、令和6年版防衛白書のパネル展示や本広報誌「ぼうえい」の配布などを行いました。

今後もこうした行事の機会に政策広報を行いますので、ご来場の際には是非お立ち寄りください。



【明野駐屯地における政策広報】



【豊川駐屯地における政策広報】



【岐阜基地における政策広報】

令和6年度方面隊実動演習「南海レスキュー2024」

東海、北陸、近畿、中国及び四国を管轄する陸上自衛隊中部方面隊は、令和7年1月13日から同月23日の間、令和6年度方面隊実動演習「南海レスキュー2024」を実施しました。

この演習は、南海トラフ巨大地震を見据え、令和6年1月に発生した能登半島地震の教訓等を踏まえ、孤立地域における発災直後の初動対応を焦点とした実動訓練を実施して災害対応能力の向上を図ることを目的としたものであり、約11,300人の陸・海・空自衛隊員のほか、約200人の米軍（陸軍、海兵隊）、26の自治体等及び39の企業等が参加するとともに、豪州、フィジー、インド、ASEAN諸国といった多数の諸外国軍人による研修・視察も行われました。

東海地区においては、自衛隊と愛知県・三重県内の関係自治体及び関連企業等が連携し、情報共有、人命救助活動、生活・インフラ支援及び物資・人員輸送といった実践的な訓練が行われました。

防衛省・自衛隊は、引き続き、地域の皆様の生命と暮らしを守るため、この演習で得られた成果を関係自治体等と共有するとともに、今後の災害対策に活かしてまいります。

（写真提供：中部方面総監部）



【人命救助活動の様子】（志摩市）



【避難輸送活動の様子】（愛西市）

地方協力
確保業務

防衛大臣感謝状贈呈（東海防衛支局管内分）



やました しずお
【山下 史守朗 小牧市長（左）】

令和6年11月1日の自衛隊記念日に際して、山下史守朗愛知県小牧市長に対し、防衛大臣感謝状を贈呈いたしました。

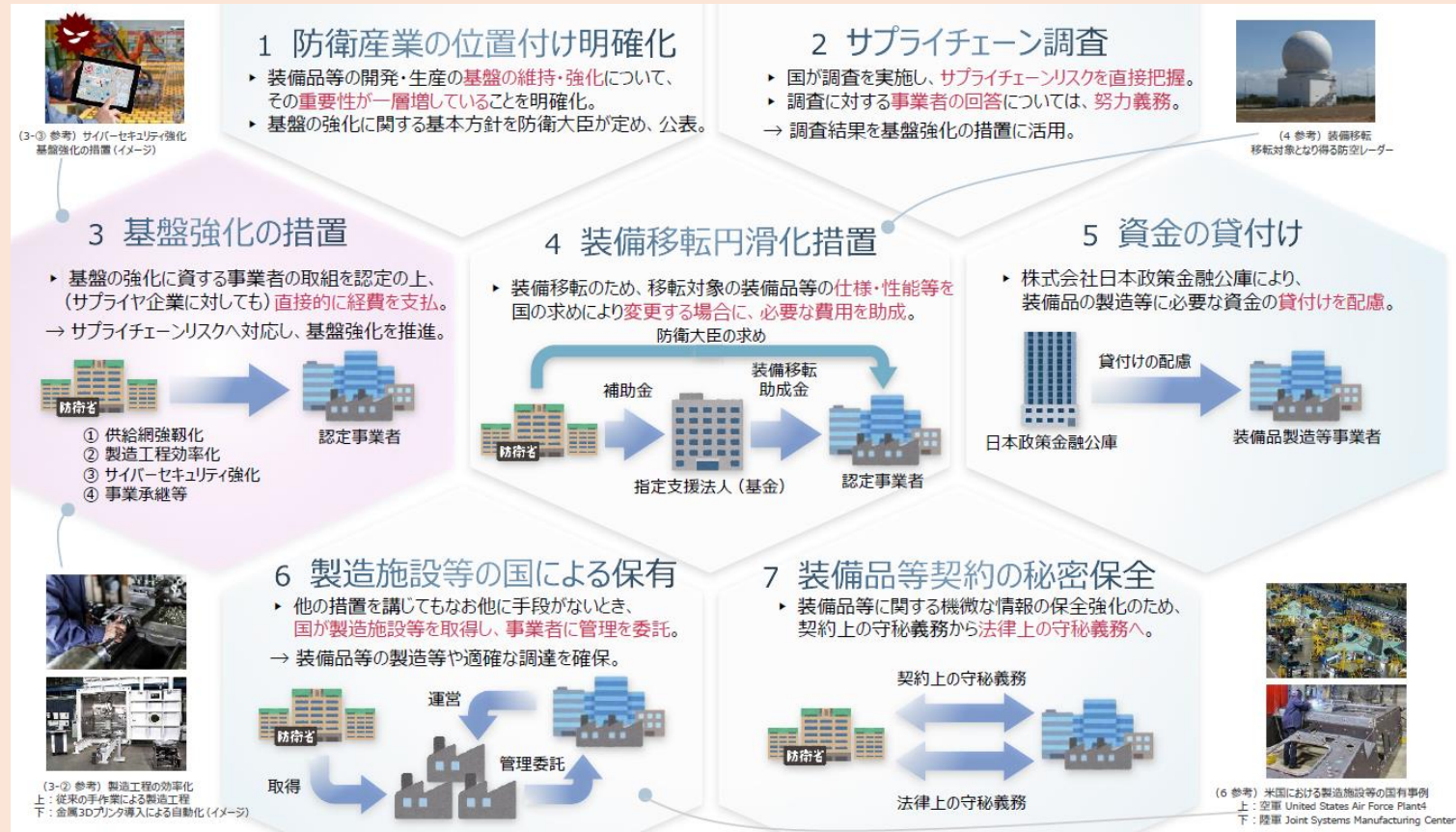
山下小牧市長におかれましては、平成23年2月に市長に就任されて以来、長年にわたり、防衛省・自衛隊に対する深い御理解と多大な御協力をいただいております。防衛施設の安定的な使用に大きく貢献されました。

改めまして、ここに深く感謝の意を表します。

防衛生産基盤強化法について

防衛省が調達する装備品等の開発及び生産のための基盤の強化に関する法律（防衛生産基盤強化法）は、いわばわが国の防衛力そのものである防衛生産・技術基盤を強化し、防衛産業による装備品等の安定的な製造等を確保するため、令和5年6月に第211回通常国会において成立し、同年10月1日より施行されました（一部を除く。）。

防衛生産基盤強化法では、供給網強靱化や製造工程効率化、サイバーセキュリティ強化、事業承継等といった基盤強化の措置、装備移転円滑化措置、資金の貸付けの配慮、装備品等契約における秘密の保全措置、装備品等の製造施設等の国による取得及びこれの防衛産業への管理委託について定め、防衛生産・技術基盤の強化を図るべく、事業撤退による供給途絶やサイバー攻撃による企業からの情報漏洩といった、サプライチェーン上の様々なリスクに対応した措置を防衛省がとることができることとしています。



より多くのサプライヤーの方に基盤強化措置をご理解いただくために

ホカニ・オラン & ニホンニ・キミシカ
絶滅危惧種のオランウータンとニホンカミシカ。
サプライチェーンリスクが顕在化している我が国の防衛生産・技術基盤を担うかけがえのない事業者を認定・支援する事業を担当している。

そのうち、防衛生産基盤強化法に基づく基盤強化措置として、装備品等の安定的な製造等の確保のために必要な経費が国から支払われる制度については、防衛省と直接の契約関係にある「プライム企業」のみでなく、そのサプライヤーにおいても、装備品安定製造等確保計画の認定を受けることで適用の対象となります。

より多くのサプライヤーの方にこの制度をご活用いただくため、制度を初めてお聞きになる方を対象とした資料を防衛装備庁ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



資料：防衛生産基盤強化法について

URL：https://www.mod.go.jp/atla/hourei_dpb.html

(写真・イラスト：防衛省HPより)

岐阜飛行場周辺防音事業 各務原市立「かかみがはら支援学校」整備事業



【かかみがはら支援学校校舎完成全景】



【特別支援学校生徒によるハンドベル演奏】

各務原市では、従来の特別支援学校が知的障がいのある高等部の生徒のみを対象とした学校であるため、小中学部の児童生徒及び知的障がい以外の障がいのある高等部の生徒は、各務原市以外の特別支援学校などに通学していたことから、全ての市民がお互いに尊重しあいながら、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、小・中・高一貫の学校として、知的障がいに加え、肢体不自由や病弱などの障がいのある児童生徒を対象とした総合的な特別支援学校“かかみがはら支援学校”を新たに整備することとしました。

同校は、令和5年7月に工事に着手し、令和6年12月には校舎、講堂などの施設が完成し、令和7年4月に開校します。

同年1月31日には、同校の講堂において完成記念式典・内覧会が執り行われ、東海防衛支局から前田支局長が出席しました。

式典では、浅野健司各務原市長の挨拶に始まり、武藤容治衆議院議員の祝辞のほか、特別支援学校生徒によるハンドベル演奏も披露されるなど、多数の方々が出席され同校の完成を祝福しました。

当支局は、同校の整備事業に対し、航空自衛隊岐阜飛行場における自衛隊機の離着陸に伴う騒音を防止又は軽減するため、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第3条に基づく障害防止工事（防音事業）として補助金を交付しました。



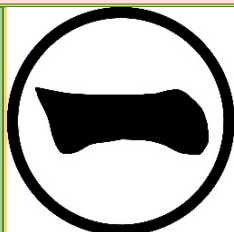
あさの けんじ
【浅野健司 各務原市長の挨拶】

（写真提供：各務原市）

【浅野健司 各務原市長の声】

「かかみがはら支援学校」には、誰もが住み慣れた地域で安心して学べる環境を確保し、未来の宝である子どもたちが各務原で心豊かに成長してほしいという願いが込められています。

本事業は、市民の長年の願いを実現したもので、障がいのある子どもたちやその保護者をはじめとして多くの喜びの声をいただいております。



「愛三岐のまちから」

いぬやま
愛知県 犬山市



国宝犬山城

【 ～やさしさ・げんき・さいはっけん～ 市民が真ん中のまちづくり 】

犬山市は、愛知県の最北端に位置し、木曽川と東部に広がる丘陵地帯の豊かな自然環境に囲まれ、国宝犬山城を中心とする歴史遺産をはじめ、様々な文化、伝統、地域資源にあふれているまちです。

令和6年4月1日には、市制施行70年を迎え、この大きな節目を新たな契機として、先人のみなさんから受け継いできた、様々なまちの財産を生かしつつ、多くのみなさまにとって、さらに愛着や誇りが持てる犬山市であり続ける、市民が真ん中にいる、持続可能なまちを目指しています。



はら よしのぶ
原 欣伸 犬山市長

「近き者悦び、遠き者来たる」。

犬山市は、「来るまち」だけでなく、「住むまち」へと、多彩な魅力を最大限に発揮した、市民が真ん中にあるまちづくりをすすめています。

市内には鉄道駅が7駅あり、国道41号の六車線化も実現し、名古屋方面にも岐阜方面にもアクセスは抜群です。また、地盤が固く、南海トラフ地震による被害予測は県内で一番少なく、安心安全なまちでもあります。

犬山市は、住む場所としても、働く場所としても、何をするにも「ちょうどいいまち」であり、これからますます成長できる潜在力も可能性のあるまちです。だからこそ、積極的に子育て支援を中心とした移住・定住施策や企業誘致など新たな挑戦を行っています。



【住むまちいぬやま ロゴマーク】



【橋五子ども未来園 ※イメージパース】

令和7年4月に、新たに「橋五^{はしご}子ども未来園」（公立保育所）を開園します。田園風景と調和する「ヒミツ基地」をコンセプトに、ゼロカーボンシティを表明している犬山市だからこそ、エネルギー収支ゼロとなるZEB施設として整備しました。

また、令和7年度は、犬山市の未来を担う子どもの権利を大切にするため「子どもの権利条例」の制定に向けた取り組みを進めます。令和8年4月には、名鉄犬山駅前の商業施設内に屋内型キッズスペースを開設し、市内の公共施設跡地には、民設民営で新たな認可保育所が開園される予定です。

自衛隊との関わり

犬山市では、災害時における協定を数多く締結するなどし、関係機関などとの相互協力体制の確立や、防災意識の向上に取り組んでいます。そうした中、毎年開催する総合防災訓練では、陸上自衛隊第35普通科連隊から隊員の皆様に参加いただいているほか、毎年2月開催の「読売犬山ハーフマラソン」では、春日井駐屯地から、コース上を走行する救急車両（アンビランス）の運行や、会場内において陸上自衛隊のジープやバイクを展示いただくなど、平時からの連携協力を図っています。



【令和6年度犬山市総合防災訓練】

防衛省職員採用に関するご案内

東海防衛支局では、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験・高卒者試験等）合格者から防衛省職員を採用しており、新規採用に関する説明会を随時実施する予定です。

説明会では、防衛省全体に関する説明や東海北陸地区に所在する防衛省4機関（東海防衛支局、陸上自衛隊、航空自衛隊、防衛装備庁）の業務説明を行います。

また、陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地において現場見学説明会を行う予定です。

国家公務員希望で防衛省に興味のある方は、是非ご参加ください。

参加には事前申し込みが必要ですので、詳しくは東海防衛支局又は防衛省のホームページをご確認ください。

今後の予定

5月25日 防衛省専門職採用試験

6月1日 人事院国家公務員試験（大卒程度）

6月上旬～中旬 業務説明会（大卒程度）

現場見学説明会（大卒程度、高卒程度）



東海防衛支局ホームページ「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/recruit/>

お問い合わせ先

東海防衛支局 総務課 052-952-8221



自衛隊地方協力本部からのお知らせ

※ 地方協力本部（地本）は、各都道府県にある自衛隊の総合窓口です。

愛知地方協力本部

（電話）052-331-6266

<https://www.mod.go.jp/pco/aichi/>



●「自衛隊 広報ROOM」（名古屋市中村区椿町21-2 第3太閤ビル1F）

自衛隊の活動などの写真パネルや模型、オートバイ（偵察用）などを展示している楽しめるスポットです。年間3回ほど、自衛隊グッズがもらえるイベントも開催していますので、ぜひ、お気軽に遊びにきてください。

岐阜地方協力本部

（電話）058-232-3127

<https://www.mod.go.jp/pco/gifu/>



● 自衛隊広報センターをリニューアル（岐阜市神田町9-4 KJビル1F）

オフィスエリアを拡充し、外観から職場風景もご覧いただけるようになります。（令和7年4月予定）また、自衛隊の装備品を展示しています。中でもF-4ファントム模擬コックピットは実機の部品を使ったもので、雰囲気は一級品です。自衛隊に関するご相談お待ちしております。

三重地方協力本部

（電話）059-225-0531

<https://www.mod.go.jp/pco/mie/>



● フリースペースをオープンしました！（三重県津市桜橋1-91）

左記二次元コードから航空機の体験搭乗や基地見学（体験喫食など）等、楽しいイベントの案内をしています！フリースペースご来訪時には、レアなグッズが手に入るかも？！



【発行】東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館（電話）052-952-8212

2025年(令和7年)春号（通巻第62号）<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

